

会 報

“ま な び”

NO. 21

富山県生涯学習インストラクターの会
平成28年7月発行

ごあいさつ

会長 種谷祐治

月日の経つのは早いもので、平成28年も年半ばとなりました。会員のみなさまは、それぞれの地域で、お元気でご活躍されていることとお慶び申し上げます。

本会では、今年も楽集会、公開講座、交流会を3本の柱として企画し推進することにしていきます。楽集会では、みなさんの登場を期待しています。内容は自由です。公開講座では、新しいプログラムを提案いただきたいと思います。交流会では、会員のみなさんと情報交換をし、共に親睦を深めてまいりたいと考えています。

日々お忙しいと存じますが、一層のご尽力をいただき、会を盛り上げたいものです。みなさんのご協力、ご支援を重ねてお願いし、ご挨拶といたします。

退会にあたって

前会長 長谷川益雄

大変ご無沙汰しております。会員の皆様方におかれましては、ご壮健でご活躍のことと拝察いたします。

体調不良の為、会長を退任しましてから、早いもので2年を経過いたしました。その後懸命に体調回復に努めて参りましたが、一向に回復する傾向が見えず、最近では外出することにも不自由を感じるようになりました。この様な状態では、満足な会員活動も出来ないと思ひまして、退会の決意をしたのであります。

思い起こしますと、平成15年に有志の皆様と本会を設立し、盛大な設立記念総会を開催、そして各年度の各種イベントの開催、さらには平成25年の設立10周年記念式典の開催など、実に多くの行事を開催することができ、会員の皆様との温かき交流、富山県や関係の生涯学習機関の皆様からのご支援、ご指導を得まして、本会の着実な進展を図ることが出来ました事は小生の望外の幸と感じております。この良き思い出を胸に、今後とも何とか頑張っていきたいと思っております。

本会は、会員の減少、イベント参加者の減少など厳しい環境が続くかと思ひますが、会員各位の英知と努力により、一層の発展を遂げられますよう併せて会員の益々のご健康とご活躍を心からご祈念申し上げます。また、所管関係各位の皆様におかれましては、本会に対し倍旧の温かいご支援とご指導を賜りますよう切にお願い申し上げます。

言葉足らずで誠に申し訳ございませんが、退会のご挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。

※28年度総会において長谷川顧問が体調不良のため、退会を申し出られ、了承されました。

風景写真を愛する私

谷村英夫

昔、ある先生が「風景に神宿る」と言っていたことを思い出し、写真を撮始めたころ意味が分からず、この先生、何を言っているのかなと考えていたことを思い出しています。それが、このごろ何となく分かるような…気がする私です。写真は、風景に限らず真の姿を美しく、みんなの心を和ませ、楽しませ、感動してもらえる写真、真実の写真、であることに近頃気付いたのかもかもしれません。私もこのような写真を、これからも撮り続けたいと願っています。

春風や梅花薫り山ゆるむ ひでお

□ 昨年の事業内容を報告いたします。

◆「平成27年度定期総会を開催」

平成27年4月19日（日）午後1時30分より CiC ビル3階において開催いたしました。26年度事業報告と収支報告がなされ、了承されました。また平成27年度の事業計画が承認されました。

◆「楽集会・報告」

「風景写真」

講師：谷村英夫さん

日時：平成27年6月28日（日）13時30分から

場所：富山駅前 CiC 3F 和室

講師の谷村さん（当会員）から季節や時により変化する山などの自然風景写真を見せていただき、カメラ機材のテクニックや、撮影の心得の話をお聞きした。特に自然風景には陰影が大切とのことでした。



講師：谷村英夫さん

◆「公開講座・報告」

「夏休み特集 楽しいおもちゃづくり」



主催：富山県生涯学習インストラクターの会
支援：富山県児童クラブ連合会
後援：富山県教育委員会，北日本新聞社

日時：平成 27 年 8 月 9 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分

場所：富山駅前 CiC ビル 3F 学習室 1～3

この公開講座「楽しいおもちゃづくり」は4年目を迎えました。34人（付き添い含む）の参加を得ました。中には県外からの帰省途中の家族連れの飛び入り参加もありました。坂林彰さんから、おもちゃづくりの楽しさについてお話を聞き、さっそく、3人の児童クラブ連合会方の指導の下でおもちゃづくりに取り組みました。ご両親やおばあちゃんの手助けを得ながら、「わりばしクルンコ」，「紙コップ・コケッコ」と「かんたん竹トンボ」を作りました。「かんたん竹トンボ」は作った後の飛ばし合いを楽しみました。作品を大事に持って帰るご両親の姿が、微笑ましく、我が子の成長を楽しみにしていると感じられました。



かんたん竹とんぼ



紙コップ・コケッコ

◆「公開楽集会（星空案内）・報告」

プラネタリウムによる楽しい星座の話

講師：池田光児氏（富山県天文学会会員、日本公開天文台協会準会員）

日時：平成27年10月18日（日）11時00分～14時00分

場所：国立立山青少年自然の家プラネタリウム

オプション：館内反射望遠鏡による昼間の天体観測

参加者：16人

講師の池田氏から星の動きの説明や星座の位置と、それぞれの神話の関連などを。ユーモア溢れる口調でお聞きした。

年に一度しか会えないという織姫星（ベガ）と彦星（アルタイル）の距離は15光年、遠距離恋愛のようだが、実はベガの年齢は30億年であり、これまでに何万回あっているのか計算できないほど、熱愛できるそうです。（報告者の計算では1000万回会える。お互いに長寿として100歳の人間にとって、年に10万回、なんと1日に300回も会える距離にいるので、互いに在宅勤務であり、1室で仕事をしているようなものです。）その他、神話と星座の話は尽きることなく溢れ出し、あっという間の一時間でした。どこまでが冗談なのか判断に迷うところもありました。

午後は館内反射望遠鏡による日中の天体観測を行った。月はあまりにも大きく見え、金星は視野いっぱいに広がり、驚きであった。2時ころに終え、紅葉が始まりつつあった立山青少年自然の家を後にした。



日中の天体観測



ドーム

◆「新春の集い・報告」

日時：平成28年1月24日（日）13時～15時30分

場所：CiCビル3F学習室5

参加者：6人

大変な雪模様となり、参加者のキャンセルが多かった。会では富山県生涯学習インストラクターの会の活性化の方法について話し合われた。高年齢化することは問題であるが、それは新会員を待つあるいは誘うしかないが、それにしても魅力を出さなければならないし、他の生涯学習との違いを示す必要がある。

当会の特徴から会員のテーマは異なるので、異テーマ間の連絡の役目を果たし、互いに抱える問題や共通点を利用しながら各方面で活躍し易くなることが重要である。したがって、相互の話し合いをスムーズに行うために、茶会や旅行、ハイキングも良いのではないかとの意見があった。

◆次年度を考える会 報告

日時：平成28年3月13日（日）13時～15時30分

場所：CiCビル3F学習室5

参加者：7人

例年では役員会を行い、年度の事業報告と会計報告の準備をしていたが、今回は「次年度を考える会」として、役員以外の参加も促したが、その効果は少なく、役員だけの会となってしまった。初めての試みであり、次年度以降にも期待したい。

始めに、事業報告（案）と会計報告（案）が提示され、修正が加えられて、総会に備えた。次年度の事業（案）や予算（案）の軽微な修正に関しては会長に任せられた。退会および休会の希望が出された。事情に合わせて会長に判断を任せた。

前回の「新春の集い」に継続して富山県生涯学習インストラクターの会の活性化の方法について話し合われた。高年齢化することは問題であるが、それは新会員を待つあるいは誘うしかないが、それにしても魅力を出さなければならないし、他の生涯学習との違いを示す必要がある。

他の多くの生涯学習の集まりは一つの明らかな目的を持っている。それは、音楽であったり、語学であったりする。それに対して本会はメンバーがそれぞれに方向の違う目的を持っているので、まとまりが就かない。それでは逆に各生涯学習における問題の解決方法や良い実施例を参考にするような集まりが良いのではないかとの考えに至った。会の名称には「インストラクター」とあるので、会員は各生涯学習の指導する立場にいるか、今後指導する立場になることになり、互いの分野の連絡員やコラボレーションの窓口の役目を担うのも良いと考えられる。

今後の活動として、今までの活動の継続に加えて会員相互の有意義な話し合いができるように、プチ旅行や、プチハイキング、会食なども良いのではないかと思われる。また、公開講座をいつもCiCで行っているが、出前講座のようにすると、地区の住民や市の協力で行える。また、道中やその場所で会員間の親睦を深める会食もできると考えられる。

【コラム 連載】 アイデア発想法 1

田代発造

私の現在のメインとする仕事は工学教育である。技術者は新製品の開発や製品への新たな工夫や製造法への新たな工夫などを行っている。それらのアイデアが創出されるのは決して天才だからではない。問題意識を持ち、豊富な経験を基にして、ある種のきっかけがあればアイデアは生まれる。そのきっかけを作るのが発想法であり、テクニックでもある。読者は技術者以外の方が多いので、なるべく例は実生活に合うようにするが、必ずしもそうは出来ないと思われるので、ご容赦願いたい。ここでは数回（数年）にわたって発想法について解説する。ただし、基本的な発想法はあるものの、新規の発想法も出現するので、この連載が終わるころには今考えられている発想法よりも素晴らしいものがあるかもしれないので、私自身も楽しみである。前置きはこの程度にして本題に入ろう。

「いいこと思い付いちゃった！」これはアイデアが出た瞬間に出る言葉である。ここで「いいこと」とは役に立つことを意味している。「思い付く」は必ずしも最新ではないけれど自分なりに新たな考えに至ったことを意味している。「ちゃった！」は自分なりに満足できて達成感を感じさせる。このようにアイデアは新しく役に立つものを創出することで、達成感が何とも言えない。

さて、夕食のメニューが決まらなくて悩む奥様が多いと思いますが、そのときにも何とかアイデアを出しています。どのようにしているのでしょうか。まず冷蔵庫を開けて材料を見て、乾物などの在庫を見る。これは現状把握である。次に昨晚のメニューを思い出す。料理本を見たり、これまでに作った料理を思い出す。これは過去を思い出している。そして、主菜と副菜の組合せを考えながら、苦肉の策で夕飯のメニューができています。感謝しています。このようにアイデアは問題の認識を行い、過去の経験を組み合わせて現状を見ながら実行可能な方法を見つけ出す方法で生まれています。この一連の作業はどのアイデアの発想でも行われています。

次の例はアイデアではありませんが、過去の経験や発想のきっかけとなる例です。バスの中で何となく見覚えのある人がいます。眼鏡を掛け背の高い男性です。誰だったか気になってしかたがありません。現在の知人かな、高校時代の友達かな、近所の人かなと思いだそうとしますが、分かりません。バスを降りて小学校の校門前を通った時、思い出しました。小学校の同級生であったが、当時は背も低く眼鏡もしていなかった。このことは、誰だったかという問題意識と過去の記憶から、思い出すきっかけとなった校門前があったということです。

今回のアイデア発想法 1 では、アイデアは天才によるものではなく、一般人も同様に考え付くものである。そして、過去の記憶や経験を基にして、現在直面している問題を整理し、あるきっかけで創生されるものである。これらを述べた。次回はアイデア発想に至る心構え、発想のテクニックについて述べる。

【編集後記】

長谷川初代会長が顧問となられたのは2年前のことです。体調が思わしくなく、本年で退会を申し出られたことは、残念でなりません。また、会員数の減、会員平均年齢の増は他の会と同様です。本会の活動が活発になる方法はないのでしょうか。皆さんのお知恵をお借りしたく、3月の役員会を「次年度を考える会」と名称を改めて全会員の出席が可能になりました。また、本号より、連載コラムを始めました。生涯学習の何かの一助になればと思います。さらに会員のコラム掲載の機会を設けたいと編集では考えています。投稿をお願いし、会のさらなる発展を目指したいと思います。

(編集)